

平成 25 年度
(2013 年度)

学校関係者評価報告書

学校法人 赤門宏志学院

赤門鍼灸柔整専門学校

1. 建学の理念及びの教育目標

(1) 建学の理念

昭和 22 年（1947 年）4 月に学校設立のとき掲げた「東洋医学を社会に普及し、国民の医療福祉において社会に寄与する」ことを建学の精神として、有為な医療人を社会に送り出すため、学校教育において努力実施してきている。

(2) 教育目標

基礎医学を基本とした東洋医学の知識と技術を深く教授し、その知識・技術の練達を計り、高い人格をともなった有為な医療人を養成し、国民の保健福祉に貢献するとともに、東洋医学・伝統医学を普及して社会の進展に寄与することを使命とする。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- (1) 入学者を確保するため、従来の入学者選考のほか、同窓生の協力を求めて、同窓生の推薦入試を新たに実施する。
- (2) 国家試験の新卒者の合格率を前年度以上とするよう教育指導を徹底する。
- (3) 赤門青年手技医療赤十字奉仕団や学友会活動を通じて医療人として必要なボランティア精神を涵養する。
- (4) 東日本大震災の被害による施設・設備の復旧工事を行う。
- (5) 教員の自己点検・自己評価及び資質向上に取り組むとともに、教員数を調整する。
- (6) 社会における東洋医学・伝統医学の受容度を深めるために取り組む。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不十分…2、不十分…1
・理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1
・学校における職業教育の特色は何か	④ 3 2 1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 ③ 2 1
・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4 ③ 2 1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4 ③ 2 1

① 実施状況

・東洋医学・伝統医学は、古くから「あんま」「はりきゅう」「ほねつぎ」として、その名称が知られている割には、社会に普及していなかった。当校は、これらを社会に普及するため、寄宿舎を設備して北は北海道から南は九州沖縄に至るまで、全国各地から入学者を迎い入れ、卒業者を全国に送り出すことによって、60 数年間にわたってすそ野を広げ社会に普及するよう先導的な役割を果たしてきた。

このように、徐々に社会普及してきたと考えられるが、平成 12 年に養成学校の設立が

規制緩和されてから患者・利用者の増加がないにもかかわらず、全国各地に養成学校が毎年増加し、従来から約9倍に増大し、有資格者も増大してきている。

・建学の理念・教育目標は学内外に明示されてきた。学内においては入学式・卒業式のときの学校長からの式辞及びオリエンテーションのときに配布する学生便覧に基づき周知徹底的に説明、また学園祭の小冊子、同窓会の会報等に記載し周知している。学外には本校の入学案内書やホームページに記載されている。教職員・学生間には認識されているが、徹底して浸透しているとは言い切れない。

② 課題

・入学者には、従来よりも東洋医学・伝統医学にかける心から湧き出る情熱的エネルギーが弱くなってきている弊害が年ごとに見られる。学校全体および各部署の中期目標・計画を策定し学内浸透を図る具体策が必要である。

③ 今後の改善方策

・建学の理念・教育目標を浸透させるために、学外に対してはホームページからの情報発信をさらに充実させていく。入学者は、高校新卒者・大学卒者および社会人経験者から成り、年齢構成も多岐にわたっているため、オリエンテーションのときに、これを再確認しながら意識を徹底的に図っていく。また、学内では分かりやすいポスターの作成や、教室や掲示板等への掲示などPR強化を図る。

・国家資格取得のための教育は当然として、さらに卒業後を見越し専門科目の教育内容(実技・実習等)の充実策を策定する。

・社会経済のニーズ等をよく把握した上で、学校教育や学校施設・設備を活用した臨床研修等の強化の企画が望まれる。

(2) 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不十分…2、不十分…1			
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
・事業計画に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④	3	2	1
・人事、給与に関する制度は整備されているか	④	3	2	1
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④	3	2	1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1
・教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4	③	2	1
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④	3	2	1

① 実施状況

・目的や事業計画に沿った運営方針等は策定されている。

- ・学校運営のための諸規定は整備されている。
- ・学則に人事規定、就業規則に給与に関する制度が整備されている。

② 課題

- ・現状や将来構想を勘案したポジティブな運営方針や事業計画を策定し、それを全教職員に徹底する環境の醸成が必要である。
- ・運営組織や意思決定機能は学則等において明文化しているが、有効に機能するように周知徹底して取り組む必要がある。
- ・情報システム構築のための戦力が不足しており、リスク管理の面からも重層的な戦力を確保すべきである。

③ 今後の改善方策

- ・運営方針や事業計画が毎年スムーズに作成できるように種々の情報や資料をデータ化しておく。
- ・全体会議や部門のミーティング等教職員間の連携を密にして、情報交換や資料の分析を行い次の工程の計画や企画に活かす。
- ・情報システム化による業務の効率化と改善提案等を行える資料を作成する。
- ・早期に問題点を発見すること及び早期に改善着手に務めることとする。
- ・人事考課制度として、数値目標を設定して適正な評価に努めていきたい。

(3) 教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不十分…2、不十分…1			
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発など実施されているか	④	3	2	1
・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	③	2	1
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4	③	2	1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	④	3	2	1
・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1

・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提携先を確保するなどマネジメントが行われているか	④	3	2	1
・関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	③	2	1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	④	3	2	1

① 実施状況

- ・当校が設置する課程学科は、国家資格を目指す課程学科で、教育目標は明確になっており、教育課程の編成・実施方針は、修業年限に対応し、教育到達レベル、学習時間の確保、学科等のカリキュラムは体系的に編成されている。
- ・附属の東洋医学臨床治療所において第3学年の臨床実習は、関係法令に基づきカリキュラムを組み、実践的な指導を行っている。
- ・治療院などを開業している教員資格のある講師(非常勤)が多く授業を担当しているので、学生は実践的に指導をされている。
- ・治療院などを開業している教員資格のある講師(非常勤)が多く採用されているが、研修会を開催して、新年度の方針や授業内容についての意見交換、定期試験の前後に授業達成度の検証及び評価点検を行い、常勤教員との連携を図っている。
- ・東北大学での解剖実習、各学会等の参加を促し学生意欲向上に努めている。
- ・鍼灸指圧科及び鍼灸科第一部・第二部は(公社)東洋療法学校協会による実技認定試験を外部評価者(他校教員)によって第3学年に実施している。柔道整復科及び柔道整復科第二部は(公財)柔道整復研修試験財団による認定実技審査を学部評価者(他校教員)によって第3学年に実施している。
- ・成績評価・単位認定の基準は、学則・試験実施要項に明記し、教職員に周知している。学生に対しては、学生便覧・試験実施要項に記載し周知している。
- ・(公社)東洋療法学校協会及び(公社)全国柔道整復学校協会の教員研修会、業界の学術大会等に積極的に参加し、資質の向上に務めている。
- ・(公社)東洋療法学校協会が主催するあん摩マッサージ指圧師はり師きゅう師の国家試験模擬試験に参加し良質な試験問題作成や勉強会を通じて教員の資質の向上、学生の国家試験の対策を図った。
- ・当校は従来より学生を基本的に大人扱いとしてきたので、学生の行動は本人に帰せられている。学生のなかには、成績評価、単位認定について保護者(保証人)に報告しない者がいるので、成績評価について半期ごと保護者(保証人)に直接送付している。

② 課題

- ・人をつくるのは教育力以外には策はないとの認識で、授業内容と教員の指導力の改善を図る必要がある。
- ・治療院を開業している教員資格のある講師(非常勤)によって、専門的な職業実践の授業科目がすでに行われてきているが、教育活動において徒弟的な上下関係の弊害が見られる。そのため、人間関係の内部をうまく処理できるようにする。

- ・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発を進める。
- ・柔道整復科の専門科目において、医師であることが資格要件となる臨床科目の一部について講師の確保が難しくなっている。

③ 今後の改善方策

- ・シラバスの開示。
- ・学生による授業評価の実施。
- ・授業評価の集計と教員へのフィードバックの実施。
- ・専任教員について、世代交代時期を見据え、専任教員の適任者を育ていく必要がある。そのため、関連分野の講習会等に積極的に参加するとともに、学内の研修会を強化して教員の資質の向上に努める。

(4) 学修成果

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3 やや不十分… 2、不十分… 1			
・就職率の向上が図られているか	4	③	2	1
・資格取得率の向上が図られているか	④	3	2	1
・退学率の低減が図られているか	4	③	2	1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	③	2	1

① 実施状況

- ・就職担当者による在校生、卒業生向けの求人情報の掲示及び個別相談等を実施している。
- ・各クラス担任による学生の成績出席状況の把握と個別指導を実施している。
- ・資格取得 100%を目標として、指導体制を構築し成績不良者に対し、授業外で補習教育を実施している。

② 課題

- ・退学者の退学理由等を統計的に把握し、その可能性がある学生に対しての対応策を講じ、最終的には0%を目指す。
- ・校歴がある養成学校として求人数は多いが、社会で求めている業種や地域に偏在があり、必ずしも学生の要望に対応していない。

③ 今後の改善方策

- ・教職員の連携を基に、成績不良者に対して授業内外において対応策を立てる。
- ・地元志向が強いことが就職にも表れているが、各地で就職できるように適切に指導する。
- ・同窓生との連携を密にし、幅広い分野で活躍できるルートの確保する。
- ・教育専攻科の就職状況や学生のニーズに対応した幅広い採用枠を開拓する。

④ 特記事項

・新卒者の国家試験資格取得率については、あん摩マッサージ指圧師試験では、毎年ほぼ全員合格し、はり師きゅう師試験では、1～3名の不合格者があるのみで、柔道整復師試験では、過去3年間で見ると平成23年度及び平成24年度は1名のみ不合格で、平成25年度は全員合格の快挙をなしとげている。

(5) 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不十分…2、不十分…1			
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
・学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④	3	2	1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生の生活環境への支援は行われているか	4	③	2	1
・保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1
・卒業生への支援体制はあるか	4	③	2	1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	③	2	1
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	③	2	1

① 実施状況

- ・健康診断の実施、またクラス担任による学生相談を行い、学生の健康面、経済面から安定した就学ができるようサポートしている。
- ・保護者との3者面談が必要な学生に対して、3者面談を実施して学力及び生活について強化をはかっている。
- ・独立行政法人日本学生支援機構の奨学金（要返還）や国の教育ローン（日本政策金融公庫）を活用して、学生の経済的な支援を行っている。
- ・地域に開かれた学校を目指して、鍼灸学科・柔整学科の学生が企画・運営する学園祭（赤門祭）を支援。青葉山校舎では、「一日治療院」を実施し、あん摩マッサージ指圧治療に2日間で約200名の患者に無料治療を行う。国分町校舎にある附属東洋医学臨床所では、「一日鍼灸治療院」を実施し、鍼灸治療に2日間で約100名の患者に無料治療を行う。
- ・（公社）全国柔道整復学校協会主催する全国柔道大会に参加するために経済的に支援。また（公社）東洋療法学校協会及び各業界団体が主催する学術大会に参加するために経済的に支援。
- ・柔道部、操体法クラブ、気功クラブ・鍼灸クラブ、指圧クラブ、美顔クラブなど各クラ

ブ活動による特色ある課外活動の向上を図っている。

- ・遠隔地から就学している学生を支援するため、学校が直接運営管理している学生寮1棟（男子定員43名）を有し、教職員（寮監）の指導を受けている。
- ・東日本大震災の被災学生（罹災証明書保持者）に対する授業料等の減免支援を行った。
- ・国家試験不合格者の卒業後の対応とし、学校での国試関連科目の聴講を推奨している。また模擬試験の受験などは在校生と同様に取扱いを行って支援している。

② 課題

- ・進路・就職に関する支援体制は学生を適切に指導するとともに、学生も自主的に判断しているが、キャリア教育・職業教育から上級学校への進学及び就職斡旋業務を強化するなどして積極的に指導する必要がある。
- ・従来は独立開業を志向する学生が多く、就職は研修の意味合いが強かったが、最近は自立精神の低下が見られるようになってきた。
- ・奨学金を出している学校として、その効果を期待してこれまで平成22年度、平成23年度に優秀な学生10人に10万円の奨学金を出し、平成24年度には東日本大震災の復興を支援するため入学者全員に、2万5千円の奨学金を出したが、遊興費に使用するなど効果はなかった。学納金収入が減少してきたこともあって、支出削減をせざるを得なくなり取りやめることになった。

③ 今後の改善方策

- ・相談窓口を充実化し学生等が有効活用を図ると同時に、学生に対して積極的な就職斡旋業務を行う。
- ・就職斡旋業務がスムーズにできるように、就職担当者による求人先との情報交換や緊密化を図る。
- ・就職説明会や同窓生との相談会を実施する。
- ・関係業界団体と更に密接な関係を深める。
- ・仙台市営バスの路線バスを陳情誘致して、市営バスが仙台駅から学校の停留所まで運行されてきたが、学生等の利用率がよくないため運行本数がどんどん減少してきた。スクールバスの運行は、これを補充するために行ってきたものである。
平成27年12月に開業する仙台市営地下鉄東西線にともない、地下鉄駅（青葉山駅）から800m圏内は、市営バスが大幅に運行が見直され、仙台駅から学校までの運行は廃止となる。スクールバスの運行計画をどうするか検討するとともに、無料運行が妥当かどうかも検討する。

④ 特記事項

- ・スクールバスを配置し、運転手を2人を雇用して「仙台駅」まで9:40~21:30のあいだに一日7往復して無料運行している。利用学生の利便をはかるとともに、通学費は大部軽減されている。
- ・約100台駐車できる大型の駐車場を設置し、利用学生の便宜供与をはかっている。
- ・校歴があるので「赤門卒」は全国の業界ではよく知れわたっており一種のブランドのように見られ、同窓会は48都道府県に支部を置かれている。

(6) 教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不十分…2、不十分…1			
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④	3	2	1
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	③	2	1
・防災に対する体制は整備されているか	4	③	2	1

① 実施状況

- ・本校施設は設置基準に定められている教室及び実技実習室・柔道場並びに学生の学びの場としての図書室（3954冊登録）等の拡充、実践的な実技指導を行える付属の東洋医学臨床治療所（治療ベッドブースは20個所）は仙台の中心部に設置され十分な環境を備え整備・充実を図ってきた。
- ・東日本大震災の被害による設備の補修工事は3年計画で実施し、今年度は第3期の上下水道管の補修工事・地下校舎の凍結散水設備（スプリンクラー）の補修工事が行われ、また冷暖房用ボイラーのオイルタンクである地下オイルタンクを廃止し、地上オイルタンクの設備工事を行った。
- ・法令で定められている施設・設備については定期点検を実施して不具合等の発生時においては迅速に対応できる体制を構築している。
- ・柔道場は冷暖房付きの大型柔道場（102畳及び床スペース、ロッカールーム、シャワー設備付き）を有し、授業科目の「柔道」だけでなく、健康維持増進のため利用されている。
- ・「バレーボールコート」が整備され、健康維持増進をはかるとともに、親睦融和をはかるため校内球技大会などが実施されている。
- ・災害時対応とし「防災マニュアル」規定を整備している。防災訓練は、学生・教職員が参加し訓練を実施している。万一のため、非常用飲料水（ペットボトル300本）を備蓄している。また学生寮にも非常用飲料水ほか非常用食料品（乾パン）を備蓄している。
- ・AEDを整備し、身体不調の緊急時に対応している。

② 課題

- ・必要な施設・設備の取得や更新について長期計画のもとに適宜検討する。

③ 今後の改善方策

- ・全体会議や各部署のミーティング等による現況・不具合等の把握・周知とそれらの改善方策の策定。

(7) 学生の受け入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不十分…2、不十分…1			
・学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1
・学納金は妥当なものとなっているか	4	3	②	1

① 実施状況

- ・(公社) 東洋療法学校協会及び(公社) 全国柔道整復学校協会の倫理規定に基づき、入学試験を実施している。
- ・入学試験においては、面接・適性検査を行うとともに、学力を試すため、原則として学力考査(国語)を実施している。
- ・入学要件、入試区分などを定め適切に運用し、入学試験委員会の入学選考会議で合否を確定している。
- ・虚偽・誇大・誤解を受けるような広告は排除し、事実が正確に伝わるように卒業生の実績・在校生の修学の実績の情報を発信している。
- ・学校見学・説明会として毎年2回「オープンキャンパス」を実施している。
- ・学校見学や説明会は、希望者全員に個別的にも行っている。
- ・入学辞退者に対する学納金の取り扱いについては、文部科学省及び最高裁判所の判断に基づいて募集要項に記載し適切に取り扱っている。

② 課題

- ・学生募集活動はできるだけ経費をかけない体制で行っている。教職員全員が一致協力して営業活動の活発化を図る必要がある。
- ・当校の学納金については、消費増税及び学校運営から関係の同種他校の状況を勘案して見直しの必要がある。学科別では当校の学納金は、鍼灸指圧科が卒業までの3年間で322万円、鍼灸科第一部が304万円で鍼灸指圧科と鍼灸科について卒業までの3学年間で見ると、他校では100万円以上のひらきがあるが、当校ではわずか18万円の差となっている。

③ 今後の改善方策

- ・在校生・卒業生の母校(高校・大学)への募集営業活動を強化。
- ・一般社会人からの入学生が多い現状を認識し、募集営業活動を強化。
- ・同窓会との連携を強め、紹介や各地域で共同しての募集営業活動を強化。
- ・スマートフォン普及率の拡大状況(特に若年層)を鑑み、スマートフォン専用ホームページの拡充作業を進める。本年5月末にリニューアルし公開し、同時にPC用HPのリニューアル公開も行う計画である。

(8) 財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不十分…2、不十分…1			
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	③	2	1

・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
・財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
・財務情報公開の体制整備はできているか	4	③	2	1

① 実施状況

- ・学納金収入が入学生の減少によりここ数年間不安定で、今後行うべき事業計画に食い込み影響を及ぼしてきている。
- ・講師を医師に委嘱している授業科目が多いため、講師の人件費が増大してきている。

② 課題

- ・柔道整復科及び東洋療法教育専攻科の入学者状況が、特に東日本大震災以降よくないので、学納金収入が減少している状況が続いている。

③ 今後の改善方策

- ・法令で医師以外でも担当できる授業科目については、積極的に医師以外の教員に担当させる。

④ 特記事項

- ・学校法人の前身である財団法人赤門学志院（公益法人制度改革のため解散）が設置運営していた美術館の美術品を継承して資産として管理している。

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不十分…2、不十分…1			
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4	③	2	1
・自己評価結果を公開しているか	4	③	2	1

① 実施状況

- ・学校教育法・専修学校設置基準、あん摩マッサージ指圧師はり師きゅう師学校養成施設認定規則、柔道整復師学校養成施設指定規則等に基づき、学則変更などの手続きを適正に行っている。
- ・個人情報に関しては、すべての個人情報の取扱いを厳格に定め教職員はこれを認識して活動を実施している。
- ・教育課程評価等の教育情報は、学校案内及び学校ホームページで情報提供している。
- ・学校関係者評価等を原則的に関係者に公表している。

② 課題

- ・著作権や個人情報保護等の重要性の認識について、一部の教職員には認識が低い傾向がみられる。

③ 今後の改善方策

- ・法令順守等については各人の業務内容にあった資料を作成し、啓発活動を推進していく。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不十分…2、不十分…1			
	4	3	2	1
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④	3	2	1
・学校の特質に応じた社会貢献・地域貢献を行っているか	④	3	2	1
・生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	④	3	2	1
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	③	2	1

① 実施状況

- ・日本赤十字社宮城県支部から公認された、「赤門青年手技医療赤十字奉仕団」が設立され、医療人になる者はボランティア精神が特に必要であるとの認識で奉仕活動を行っている。これまで献血活動等が認められ厚生労働大臣、宮城県知事や日本赤十字社などから表彰を受けている。
- ・各業界団体と連携し、学生の研修会参加やスポーツ大会（マラソン大会など）へのボランティア参加（救護・施術補助）を周知・斡旋・教員による引率などを行っている。
- ・日本赤十字社宮城県支部に協力金を拠出し、また東北大学白菊会（篤志献体の団体）に賛助会費として協力金を拠出し、その活動を支援している。
- ・仙台川内亀岡交通防犯安全協会に協力金を拠出し、その活動を支援している。

② 課題

- ・各関係業界、他団体との交流について検討していく。

③ 今後の改善方策

- ・各業界との連携を密にし、情報交換・交流を行い、学生のニーズを満たすとともに地域社会に貢献できる具体策を講ずる。

(11) 国際交流

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不十分…2、不十分…1			
	4	3	2	1
・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4	③	2	1
・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	③	2	1
・学内で適切な体制が整備されているか	④	3	2	1

① 実施状況

- ・外国籍の留学生の受入れは、これまで多数の者を支援してきた。この姿勢は今後とも堅持していく。

② 課題

- ・当校で取得する資格は、日本の国家資格なので本国に持ち帰っても認められない事例が多い。基本的にわざわざ来日して、取得しなくともよい資格になっている。